

## 2015ロシア・ウラジオストク視察報告

### はじめに

2012年から始まったロシア極東視察は今回で5回目を数える。最初は港湾視察と儀礼的な議会訪問、一般的な工場視察から始まったが、回を重ねるごとに極東との経済交流・人的な交流について内容が深まってきた。昨年数名の経済人が同行しロシアの農業などの現況について調査したが、今回は一歩進めて、具体的に相手方を定めた商談が出来るよう事前のアポイントメントをとった上での視察となった。

具体的な商談は次のような対象であった。

- ① 畜産飼料用の牧草栽培について
- ② 海産物の輸入について
- ③ 現地でのホテル建設について
- ④ 現地でのゴルフ場建設について
- ⑤ マンション内装について
- ⑥ 古紙の輸入について
- ⑦ 歯科医療ツアーについて

以上の商談のほか、物流の状況、通関の課題などについても関係者に事情を聴く機会があった。更に沿海州地方議会議長のゴルチャコフ氏、ハサン区副区長など行政関係者にも面談の機会を得た。とりわけ、今回は牧草の種子を日本から持ち込み現地での試験栽培を委託する予定であったが、ロシア側の検疫手続きの確認に手間取り、計画を断念せざるを得なかった。この手続きについては、視察中具体的な手続き方法を確認できたので、改めてロシアでの牧草試験栽培にチャレンジしたい。

また、現地の物流業者（日本資本の会社）がこれまで鳥取県との契約でアンテナショップを受託してきたが、契約が切れたので新潟県に協力の用意があるとのことであった。検討に値するのではないか。

さて、今回は早くて来年春に就航予定の日本海横断フェリー航路を多分に意識した視察となった。前述の商談もそうであるが、商談先に横断航路の話をすると同様に興味を示した。一連の商談がこの航路に貢献することを期待したいし、そのようになるよう今後の活動を続けていきたい。

## 1. 視察報告

### 《第2日目》

#### 1) ベルクート社、V.A.Pokotilov 社長との面談

Pokotilov 氏は沿海州地方議会テキエフ副議長の配下にあつて、テキエフグループの子会社のベルクート社を経営している。今回は、テキエフ副議長が時間がとれず、代わつて我々の日程について便宜を図らつてくれた。この日の面談は主として、次の日に予定していた「農場視察」「海産物養殖視察」について日程を調整した。結果、3日目の午前早めに出てハサン地区役所を尋ねたあと農場視察、その後なまこ養殖場を視察することになった。

#### 2) ホームテクロゴス社、Hideki Ikeda 社長

S.A.Anna 氏 (Manager&translator)

ウラジオストク中心街から20分ほどの海に面した広大な敷地にいわゆる団地を建設中であつた。全部完成すると45000所帯が入居することになるそうだ。その一角にモデル的に数棟が完成乃至は建設中であつて、入居者も既に見かけた。そのうちの一棟にあるモデルルームを視察した。

内装を手掛けている日本人社長池田氏に説明を受けた。

ロシアでは通常、集合住宅の内装、設備は購入者が各専門業者に別々に交渉することになっているが、同社では日本式に全部代行して購入者と決めて工事も一括で請け負う販売の仕組みをウラジオストクで初めて取り入れたとのこと。家具も同様で同社が一括して用意している。

実際、壁紙、床の資材の一部はロシア製であるが、その他下水道、家具、トイレ、キッチンなど一切は日本製であつた。

これら日本製品は全て、鳥取県の関係者からの依頼で、DBSフェリーで鳥取から運んでいるとのこと。新潟からの横断航路が就航したら、利用してくれるよう要請した。

ここでの価格は2000~2500万円でロシアではかなりの高価であり、通訳のアンナ嬢によるとなかなか売れないとのことであつた。(部屋の広さはおよそ2LDKといったところだつた)

#### 3) 極東開発基金、Andrey Zubkov 氏 (Senior Director/Moscow)

ヒュンダイホテルで面談。Zubkov 氏はモスクワ駐在。

この基金は対外経済銀行の100%子会社である。極東発展省と緊密な関係にあつて、極東地域(沿海州、サハリン、カムチャッカ、ハバロフスク他)のプロジェクトに投資している。投資割合は当該企業の資本の50%以内であり、経営権はとらない。

主な融資対象は、ロシアからの輸出事業、及び観光客誘致に関わる事

業である。現在 165 億ルーブル（約 350 億円）の資金を有する。

現在取り組んでいるプロジェクト例は、ハバロフスク空港、アムール川に架かる橋などである。

なお、ロシアでの銀行貸し出し金利は 1 割 6 分くらいだそうで、考えられないくらい高いが、この開発基金では優遇金利を設定していてそれでも 1 割だそうだ。

9 月 3～5 日に極東経済フォーラム（ウラジオストク投資フォーラム）が開催予定で、Zubkov 氏からは吉田進氏に対して、日本側参加者をどう募集すればよいか相談があった。吉田氏からは日本の民間団体（経団連傘下など）の例を挙げてアドバイスがあった。吉田氏のこれまでの実績あるいはネットワークにかなりの信頼感を持っているようであった。

#### 4) 元極東大学学生寮視察

Anastasia Tarazanova 氏（Real Estate Advisory Services）

極東開発基金を通して紹介された物件を不動産会社の担当者の案内で実際に見ることになった。ウラジオストク市内の中心部にあつて、戦前は日本の新聞社が使用していたようで、直前には極東大学学生寮であったそうだ。レンガ造りの歴史的建物で重厚な趣であったが、いかにも古く荒れていて改修するにはかなりの物入りな感じがした。底地を含めた販売価格は日本円で 2 億～3 億円とのことで、同行した建築業者など専門家からは否定的な声があがった。学生寮時代に相当外観的に増築した部分もあつてかえって改修するにしても困難な構造である。

今回はこの建物を改築してホテルとして利用したらどうかというのが極東開発基金からの提案であったが視察団としては否定的な回答をせざるを得なかった。

#### 5) 日本通運ロシア社、Evgenia Zakjarova 氏

（ウラジオストク支店）Assistant branch Manager

支店次長はロシア人女性で日本語が堪能であった。支店長は日本人であるがウラジオストクには常駐していない。一般的な情報交換のほか、今回難儀した種子のロシアへの持ち込み手続きについて、昨日のスラビアンカでの入管吏からの話の裏付けとなる確認をすることが出来た。

基本的には受け入れるロシア側当事者（この場合、種子を試験栽培してくれる農業者）と種子栽培を委託する（種子を送る）日本側の畜産業者との契約書が必要で、正規の申請書類とこの契約書を合わせてモスクワの当該機関に提出して許可をとることになるそうだ。本来持ち込もうとする種子の品種がわかっているので、該当すれば（ロシア側の説明では許可すべきリストに掲載されていれば、という）許可不許可の目安は

事前に分かっているはずであるが、要するに正規な必要書類を揃えてモスクワに申請する手続きをしなければならない、ということだとわかった。

ここの日本通運でその申請の手続きを代行できるとのことであった。しかし、まずは先方とこちら側との契約書がなければ事は進まないことも明白になった。

なお、入管業務のヘルプのほか、当然ながら物資の輸送にも本来業務として取り扱いをすとのことであった。

6) センコン社、佐野淳社長

昨年まで、鳥取県から委託を受けて、自社の事務所（ウラジオストク商業港のフェリーターミナル前の建物1階にある）を鳥取県アンテナショップとして運用していた。3年前にも港湾議連視察で尋ねて佐野社長に話を聞いている。今回は、鳥取県と委託契約が切れてフリーになったとのことで訪問（今年2月のエリナセミナーで新潟で面会したときに聞いた）した。丁度、店を改装中で今後は日本の各県からリクエストがあれば協力の用意があるとのこと。鳥取県は結局、J S N（新潟市の田代氏が経営）社に県事務所を委託したそうで、市内のノスタルジアレストランの丁度前にあるとのこと。（後でバスの窓から確認できた）

センコン社は元々物流、貿易事業が本業であるが、相変わらず事務所自体が好立地であるので、新潟県としてもフェリーが就航したあかつきには何らかの利用を考えるべきである。

なお、センコン社が入っているビルであるが、センコン社の斜め前にロシア人経営の日本製日用雑貨の店がある。また、2階には日本製包丁を売る店があり、4階には近いうちに日本料理店「海峡」がオープンする予定だそうだ。この店はかつて日本総領事館の2階にあった「豊原」のオーナー—関氏の経営。（その後ウラジオストクからの情報によると無事日本風居酒屋として開業したとのことである）

7) ロシア極東連邦大学教授 T.Khuziyatov 氏

来年の I F N A T（北東アジア国際観光フォーラム）のウラジオストクでの開催について打合せを行った。I F A N T事務局からは、教授に対しての本年のウランバートルでの第11回 I F N A Tへの招聘状とウラジオストク市宛の来年の開催要請の書面を手交した。

教授はウラジオストクでの開催に向けてウラジオストク市当局、観光関連者への働きかけに協力してくれることになった。

（なお、その後、ウラジオストク市から来年の開催を受け入れる旨の連絡があった。8月18日現在）

教授からは関連して、近い将来、日本人のロシア入国ビザが8日間に限って免除になる可能性が高いとの情報を得た。実際に9月初にウラジオストクで開催される投資フォーラムを期に実現する可能性もあり、遅くとも来年夏くらいまでには法律が改正される模様とのこと。朗報である。

また、別な情報として、中小企業の税務調査を3年間やらない、ということ、言葉を変えると中小企業のボスを3年間は捕まえない、という法律が出来るそうだ。同行の吉田進さんによるとこれは画期的な法律で、いやがおうでも中小企業が発展するだろうとの指摘があった。

## 《第2日目》

### 8) ハサン地区政府、ホテルドミリエフ ゲルツェン副地区長

3日目の8時半にホテルを出発、途中銀行によって両替をする。約3時間半掛ってハサン地区政府に到着。ゲルツェン副地区長ほか、経済部長、通関吏、農業者などと政府会議室で懇談。副地区長は女性で日本語の単語を少し知っている。来日経験もあり。好意的な対応であった。

通関吏とは牧草種子の検疫の手続きで情報交換を行った。今回、試験栽培用の種子を日本から持ち込むことは断念したが、今後の持ち込みについてロシア側の必要手続きについて情報を得た。(後述)

### 9) 農地視察

ハサン地区の市役所(地区政府)で同席した Pokotilov 氏紹介の農業者(氏名不詳)の所有する農場を視察した。のザルビノ港を過ぎて、8 KMほど離れた地域に約3500haの農業を所有している。そのうち現在は800haほどの面積で大豆を契約栽培しているとのこと。契約先はおそらく中国であると推察される。今回の視察は牧草栽培の可能性を探ることであったが、現時点で遊んでいる残りの2700haの土地で栽培することは可能だそうだ。また、日本への輸送についてはザルビノ港が近いが、そこまでの(農場から港までの)輸送はこの農業者側で責任を持つとのことであった。ロシアの場合輸送コストにかなりのリスクがあるので(センコン物流でのヒアリングから)長距離での運送は避けたいところだが、この牧場(農場)からであればかなり日本側にとっても有利な条件下にあると考えられる。

問題の牧草については、種子さえ届けば、来春から試験栽培を請け負ってもよいとのニュアンスの回答があった。また、牧草の値段であるが、今回は話に出なかったが、栽培する際の密度などから、十分大豆などと比しても遜色はない、との吉田進氏の解説があった。ただし、この

農業者や近隣の農場でも現在牧草を栽培している農家はない。

但し、契約栽培ということで買い取りを保証すれば、牧草の栽培には抵抗がない模様であった。

#### 1 0) なまこ養殖場視察

ザルビノ近くのなまこ養殖場を視察した。この企業は Pokatilov 氏が創業し7年間所有、経営していたが最近売却したそうである。

施設は海岸から50～100M離れた傾斜地に立ち、木造で決して清潔とは云えない。中になまこの養殖槽があり、視察時点では槽には養殖時期ではないとみえて空であった。ここに海水をくみ上げ適当の大きさになったものと海にかえして育てるそうである。施設周囲にかなりの人はいたが働いている様子ではなかった。施設、養殖に係る用具、飼料など一応視察は出来たが、なまこそのものの姿がなかったので現実感に乏しかった。

### 《第3日目》

#### 1 1) 沿海州地方議会ゴルチャコフ議長

沿海州政府ビルでゴルチャコフ議長と面会した。議長とは一昨年議連のウラジオストク市訪問時に会っている。(この時は河村健夫衆議院議員はじめ5名の国会議員が同行)

今回は約1時間にわたり懇談。議長からは最近の沿海州事情を聞いた。

ウラジオストク市は町が出来てから今年9月2日155周年を迎える。3～5日に東方経済フォーラムを開催する。フォーラムを前にウラジオストク港の自由港化する法律が出来る。フォーラムには将来の投資家を招き沿海州の経済開発を促進する。現在新ハバロフスク空港建設と合わせてアルチョム周辺を開発しゴルフ場、ホテル、経済センターを建設する。また金角湾近くにもホテル建設を計画している。極東大学の元学生寮もホテルとして使いたい。観光客誘致、また投資を呼び込むために8日間のビザ無滞在を政府に要望している。(Khuziyatov 氏の話と一致する)

議長の説明に対して、石井団長から日本からウラジオストクへの観光客誘致の重要性について提案を行った。特に日本人向けのホテルの建設、ゴルフ場の開発など日本からの技術を導入しての開発の必要性を力説した。こうしたハードのみならずソフトを含めた日本人観光客向けの環境を整えば、日本からの近さ、町の雰囲気、歴史などから考えれば、日本からの需要を取り込める可能性が大であることを説明した。

#### 1 2) 極東開発基金、Tatiana Panfilova 氏 (Senior Director)

### Evgeny Sidorenko 氏 (Managing Director)

ホテルとしての建物候補資料を持参してくれた。昨日見た元学生寮については、建物としての歴史も古く文化財的価値はあっても、改築してホテルにするには無理であるとの見解を伝えた。

また、極東開発基金から、ウラジオストクへの投資について意見を求められた。これに対して、こちら側からはウラジオストクへのインバウンドの重要性について指摘すると共にその為に観光関連インフラの整備が急務であることを説明した。とりわけ、ホテルの建設であるが、先方からの候補物件については難があるため、別な方法（日本のホテルチェーンによる投資など）を考える必要があると伝えた。なお、ハバロフスクでは新たな空港建設（日本の双日が手掛けていると聞いている）にあわせて東横ホテルチェーンが空港に隣接したホテルを建設中（あるいは計画中とのことである。いずれにしても、ウラジオストクのホテルの絶対数の不足と料金面での高さから、日本からの観光客のニーズにあったホテルが必要であることを強調した。

#### 1 3) Pokotilov 氏 (2回目)

今回は主としてウラジオストク市乃至は近郊におけるゴルフ場開発についての情報交換を行った。日本から持参したゴルフ場設計図、または新潟県にあるゴルフ場の図面を示して、ゴルフ場の外観について説明を行った。ホテルなどの宿泊施設もウラジオストクが必要であるが、日本人の観光客にとってゴルフが訪問地での重要な要素であるので、ゴルフ場が日本人観光客誘致に欠かせないことを理解してもらうよう努めた。

ウラジオストクでのゴルフ場建設の進め方については、今後日程及び計画スケジュールを検討することとした。具体的には1ヵ月半ほどで、候補地を選択し提示する。その後、F Sの為に日本から設計者を現地に呼んで基礎調査を行い、基本的な構想を策定することとした。

但し、候補地の紹介については Pokotilov 氏が訪日するのか、こちらから再度ウラジオストクを訪れるのか言及はなかった。

#### 1 4) Pokotilov 氏、Y.M.Kostyukov 氏を招待して夕食会

おふたりを招いて Delmar レストランで今回の視察の最後の夕食会となった。(海鮮料理)

Kostyukov 氏は吉田進氏の古い友人で、フィリピンの在ウラジオスク名誉総領事で Pokotilov 氏とも知り合いであった。

## 2. その他のヒアリング

### 1) 古紙について

古紙については Pokatilov 氏と情報交換を行った。ロシア、少なくともウラジオストクでは古紙を集める習慣（行政による廃品回収のサービス）がない、とのことで、現状では燃やすか捨てるかで古紙を再利用していない。従って、まずは古紙を集める仕組みを構築しなければこちら側の要望に応じることは出来ないとのこと。結局は基本的な廃品回収の仕組みから考えねばならない、ということになった。

従って、当面は古紙の輸入は断念せざるを得ない。

現在、新潟市の廃品回収業者からの情報によると、古紙1トンが2万円前後で韓国に輸出されているとのこと。もし、ロシアでも回収の仕組みが出来て、まとめて日本へ輸送され、それらのトータルコストがその価格以下であれば、計画されている日本海横断フェリーの有力な貨物になりうると思われる。今後とも研究が必要である。

## 2) 歯科医療観光について

いわゆる医療観光が話題にはなってるが、実際にはさまざまな困難が伴い進捗は見られない。替わって、歯科医療観光を新潟としてはトライすべきということで、今回歯科医療関係者に研究のための同行を依頼したが急なオファーで同行は叶わなかった。今後は就航が予定されているフェリーによる日本海横断航路を活用し船上での歯科医療なども考えられ、観光分野でのあらたな需要創出という意味合いで歯科医療観光の可能性を模索すべきと考える。

今回は、ベルカート社の Pokotilov 氏に現地のロシア人の海外での歯科医療の実態をヒアリングするにとどまった。

氏によると、現在では韓国へ歯科医療に出かける人が多いとの事。費用、あるいは受け入れ態勢で韓国に一日の長があると考えざるを得ない。次回は新潟の歯科医師を同行して実態調査を行いたい。

## 3) 鳥取県出先オフィスについて

センコン物流との契約が切れて、現在では、鳥取ビジネスサポートセンター業務を J S N（田代社長、新潟出身のロシア情報関連企業）が請負い、レストラン「ノスタルジア」の向かい側で事務所を設けている

今後は出来る範囲で J S N から情報収集すべきと考える。

## 3. 今後の課題

### 1) 牧草種子のロシアへの持ち込みについて（ロシア側に検疫をどうクリアするか）

今回は結果には種子の持ち込みを断念せざるを得なかった。具体的な



経過が次のとおりである。

当初、ロシアでの牧草栽培については新大の長谷川教授からの情報提供でアメリカ、カナダからの輸入に比較して安価であるとのことであった。トン当たり、アメリカ、カナダ産が15,6千円であるところロシア産は4千円位とのことであった。畜産業者との懇談で、日本から種子を持ち込みロシアで試験栽培ができないかとの提案があった。

そこで、USA産のオーチャード、ティモシーの2種の種子を今回の視察にあわせて持参し、現地での試験栽培を依頼することとなった。その為に2種を種子を15kgづつ松田牧場の手配で入手し、新潟での海外持ち出しの検疫許可を得たが、最終的にロシア側での検疫、持ち込み許可の見通しがたたないことが判明し、出発直前に持参すること断念することになった。

種子のロシア持ち込みに関する正確な手続き情報が、出発前には判明せず今回はこうした結果になったが、視察中の調査（前述）によって必要な手続きが判明したので、来春現地での試験栽培開始を目途に必要な作業及び手続きを進めていきたい。

## 2) 来年就航予定の日本海横断フェリーに関連して

今回の視察でいくつかの具体的な経済交流の糸口が出来たものと考えられる。その経済交流が物流という面で来年就航予定の日本海横断フェリーの貨物需要の創造と観点で貢献できる可能性が芽生えたと云える。今後はこれらの経済交流を確実に実現できるよう支援していくべきであろう。

## 3) 経済交流の継続進展について

今回交渉の窓口となったロシア側関係者を近いうちに新潟に招いて経済交流について継続的にその進展を確実にものにしていく必要がある。

今回は会えなかった沿海州議会副議長テキエフ氏、その配下でベルクト社の社長ポカチロフ氏に至急アプローチすべきと考える。

## 4. 視察後（帰国後）の動き

### 1) 東方経済フォーラムへの参加招待

視察後の9月初にウラジオストクでプーチン大統領も参加して、世界中から関係者が招いて、ロシア極東地方への外資誘致のための「東方経済フォーラム」が開催された。当初、ロシア大使館を通じて、このフォーラムに今回視察した我がチームに参加するよう招待があった。結局は、参加者が予想より大幅に増えたため、ホテルなどの予約が出来ず、断念せざるを得なかった。予定では20分ほどの日本（新潟）からの経済交流の提案をしてほしいとの依頼であった。（その資料は日の目はみなかった）

たものの作成を完了し、その後、次の記すウラジオストクからの訪問団との新潟における会合で披露することになった)

2) ウラジオストクからの経済訪問団の来港

沿海州副議長テキエフ氏とベルクート社のポカチロフ氏が11月4日の日露エネルギー対話に参加のため来港。前日の3日に新発田で経済交流の為の座談会を、視察メンバーの参加を得て開催した。その席上で、前項のとおり、経済交流の提案を新潟側から行った。

その結果、現在次の事業について相互で検討あるいは具体的な取り組みが進んでいる。

- ・海産物の輸入
- ・牧草の輸入
- ・マツタケの輸入
- ・立体駐車場の設備輸出

なお、これらの事業が実現した場合には、ウラジオストクとの輸送について現在計画が進行中の日本海横断フェリーを活用し、同事業の運営に貢献できるようにしたい。